

ブルーベリーのカルテック施肥例

(10アール当り)

時期	目的	資材と施用法
(9月中旬) 収穫直後の 礼肥	根の早急な回復 秋の養分蓄積	濃縮酵素液 1リットルを 1000倍(以上)に薄めて灌水 または 800倍で葉面散布 ※もし樹勢が弱ければ、ラクト・パチルス300g、硫安5kg、Ca 5kgを散布。
(10月) 元肥 ※礼肥と元肥を かねた施肥。 ※礼肥を早く与 え た場合は、 (12月下旬～ 1月)休眠期に 元肥を施す。 ※元肥を分施す る場合は、 ①(11月上旬) 紅葉期の前に 半量、 ②(12月下旬～ 1月)休眠期に 半量とする。	基本的な土作り、樹体の基礎 栄養の準備 ※チッソ過多による 遅伸びが心配な 場合は、休眠期 に入ってから施 肥。 ※土壌pHの大幅な 調節(酸性化)は 休眠期に行うの が無難。 ※落葉期は11月 中旬～1月中旬 で、品種により違 う。	ラクト・パチルス 600グラム …土の化学的安定、団粒化、保水・通気 性 硫安 真砂土や赤土では 10kg 、深い黒ボク土では 20kg ※ブルーベリーへの施肥は 硫安が最善です。決して硝酸態チッソを施さ ないこと。アンモニアを硝酸に変えずに アミノ酸化し、ECを上げない為 にはラクト・パチルスを混ぜて施用することが必須です。(他の肥料の場合 も) ※真砂土で 有機物マルチが分解しない場合は、硫酸カリ 5kgを追加。 カルテックCa 粒状 20kg (1本当り100g) ※カルシウム、ミネラルと イオウを 安全・効果的に栄養分として補給しま す。 ※ブルーベリーは好酸性で、 土壌pH:4.5～5.5 が適切です。(ハイブツ シュは更に低pHで、4.0～5.2と言われます。) 下記の2つの方法の組合せで低pHを保つのが 土と根の為に最善です。 ①<カルテックCa粒状>により 土壌pH:5.5～5.7程に安定させる。 なお土壌pH:5.7以上の場合には 10アール当り30kg施せば、pHは 0.3ほど 低下(酸性化)します。(イオウ粉末と違い、根を傷めない) ②有機物マルチに<ピートモス>(酸性中和していないもの)を使って p H:4.5～5.5に低下させます。ただし他の材料とよく混和すること。 敷きワラ(有機物マルチ)の補給 (5～10cm厚ほどに) ※木質(おがくず等)、モミガラは チッソ吸収に注意。稲ワラ、麦稈、青刈り 牧草等は CN比:35前後と適切ですが、これは分解すると(地力的な)肥 効となるので、徒長防止の為には カルシウムの併用(増量)が必要です。
(3月) 春肥 (芽出し肥)	① ② 春の葉・枝と花 に栄養分を供給	(2月下旬)根の活動開始より前に 濃縮酵素液 根を動かす (3月中旬) 葉芽の発芽、展葉、花芽の催芽に、バランス良い春肥 を 真砂土や赤土では、 硫安 10kg …葉の展開 カルテックCa粒状 10kg …花芽の栄養
(4～6月) 開花・肥大中 の調節	①(4月) 開花前 ②(5月) 開花後 ③(6月) 肥大期	カルテックCa液状 1000倍(以上)に薄めて 灌水 または葉面散 布 濃縮酵素液 1000倍(以上)に薄めて 灌水 または葉面散 布 カルテックCa液状 1000倍(以上)に薄めて 灌水 または葉面散 布
(6月中下旬) 収穫開始前 20日頃 実肥	果実肥大と、 樹勢の維持	硫安 5kg カルテックCa粒状 5kg ただし痩せた砂土の場合、5～7月 3 ※上記2つを同時施用します。樹勢によって施用量を調節して下さい。 硫安(チッソ)を10kg(以上)施したい場合は、ラクト・パチルス300gを混 用して下さい。ECが上らずにすみます。 ※土壌EC:0.2以下(施肥後も0.2以下)、pH:5.5以下であること。
(7～9月) 収穫中の調節	果実成熟、花芽分 化 (灌水時に使用)	肥大が弱く、樹勢が衰弱しているなら … 濃縮酵素液 1000倍(以上) 成熟(糖度12度)が遅く、徒長気味なら… カルテックCa液状 1000倍(以 上)

上記は関東以南の **ラビットアイ・ブルーベリー**、またはラビットアイを台木とするハイブツシュの施肥例です。長野以北の**ハイブツシュ・ブルーベリー**は 生食用として品質が良く、早熟で、耐寒性ですが、樹勢が弱く、根が浅く、特に土壌適応性が狭いので注意。

※ブルーベリーに好適な土壌条件は、地下水位50cm程で 常に水分が保たれて乾燥せず、土層は滞水せず 通気が良いこと。砂質か黒ボク土壌が適し、有機質に富むこと(10%程度)。重粘土質では有機物の投入と敷きワラ(有機物マルチ)が必須。

酸性を好むので、植付け前に、もし土壌pHが6.0前後と高すぎる場合は、イオウ粉末を（1アール当り）、砂地なら2kg、壤土なら5kg散布すれば 土壌pHは大体 0.5低下します。また、ピートモスを 1本当り20リットル程度、植え穴の土とよく混和して、20日以上おいて落ち着かせ、pH:4.5(～5.5)とします。（植付け後は、春に温度が上がる芽出し肥時に イオウ粉末によるpH調節が行われますが、これは根を傷めやすく、危険です。土も傷みますので、少量ずつ分施しますが、使わない方がよい。）

※ブルーベリーの根は **根毛が無く、先端が極めて細い** 異常な根で、養水分の吸収力は通常作物の1/10程度と言われます。

敷きワラ部分と 20cm 深までに広がる **繊維根や細根のスポンジ層**が養水分吸収の主役であり、(ラビットアイでは)更に深い根

もあるが、根の2/3は 40cm 深までに止まります。ただし土の通気性が良くなると 1mより深い土中にも細根が張るようです。土壌EC:0.3以上になると **根は高濃度障害を起します**から、施肥時にラクト・バチルスを混用することが大切です。